

## 幻の駅と幻の鉄道計画

平成28年8月号のふるさと見て歩きで水郡線誕生の概要についてご紹介しましたが、今回は水郡線にかつて存在した駅と幻に終わってしまった鉄道計画についてご紹介します。

### 【消えた常陸村田駅】

現在運行されているJR水郡線はご存知のとおり茨城県水戸市と福島県郡山市を結ぶ計45駅の鉄道路線です。市内には常陸大宮、玉川村、野上原、山方宿、中舟生、下小川の6駅があります。

今から80余年前の昭和10年、旧那珂郡静村に常陸村田駅が開設されました。当時の水郡線は水戸から郡山までの全面開通を目前に、発着本数の増加を目指し、水戸-太田、水戸-大宮間でガソリンカーを採用しました。

これは水郡線に平行して走る道路を使った乗合バスの進出が理由のようです。ガソリンカーはそれまでの蒸気機関車が牽引する列車よりも停車や発車が簡単であったので、すでに開設してあった駅の間で専用の停留所を作って利便性を高め、運行本数を増やすことで乗合バスに対抗しようとしたものです。そして新しく設けられたガソリンカー専用停留所のひとつが常陸村田駅だったのです。



▲常陸村田駅があった下村田地区を走る水郡線のディーゼルカー

しかし、常陸村田駅が利用されていたのは10年足らずの期間でしかありませんでした。

全国に普及したガソリンカーに不可欠なガソリンは、戦時下になると利用規制がされるようになります。ガソリンカーの活用は減っていき、昭和20年8月の終戦直前には運行困難となります。それは水郡線も例外ではなく、専用停留所としての役割を失った常陸村田駅は廃止されることとなりました。ガソリンカーが軽油を燃料とするディーゼルカーへと姿を変え、蒸気機関車に代わって水郡線を走る姿が見られるようになるのは、終戦から15年以上を経た昭和36年以降です。



▲旧国鉄の境界杭（右から茂木町、市内野田地区、同）

### 【幻となった国鉄長倉線】

大正時代に公布された改正鉄道敷設法の別表第38号に「茨城県水戸ヨリ阿野沢ヲ経テ東野附近ニ至ル鉄道及阿野沢ヨリ分岐シテ栃木県茂木ニ至ル鉄道」という記述があります。上記の「阿野沢」とは現城里町阿野沢、「東野附近」とは現在の玉川村駅付近だと考えられます。つまり、那珂川を渡って水郡線に繋がる線路と、茂木に繋がる線路ができていた可能性があるのです。当時水戸から伸びていた茨城鉄道茨城線（通称御前山線）を御前山駅から長倉まで、真岡鐵道真岡線を茂木駅から長倉まで、双方から延長することで繋がる予定でした。

この計画はかなり具体的に進んでいたらしく、茨城鐵道では道中の鉄道敷設免許状が下付され、真岡鐵道ではすでに敷設の準備が始まっており、現在でも茂木町内にはその軌道跡を見ることができます。

しかし、この計画も戦時下の物資不足により那珂川を渡る架橋を作ることができずに頓挫してしまいます。茨城線も1966（昭和41）年を皮切りに徐々に営業区間の廃止が進められ1971（昭和46）年に全線廃線となり、国鉄長倉線計画は実現しませんでした。

長倉線が開通していたら、今頃、市内の那珂川沿いはどうなっていたのでしょうか。久慈川沿いの水郡線と同じように、汽車が那珂川沿いを走る風景を見たかったと思うのは私だけではないはずです。



▲茂木町内に残る長倉線の軌道跡

### ■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111（内線344）